

4月18日



↑「望郷哀歌」の作詞者・志賀大輔先生とカラオケ大会でお目にかかりました!

4月18日



↑川崎歌謡連盟の山本信平実行委員長と

月刊 青戸

第9号

平成16年6月
編集
オフィス・オレンヂ

4月26日



茨城県のごぜんやま温泉保養センター「四季彩館」で歌謡フェスティバルに出演。ホットなひと時でした。

→千葉県市川市にある「スタジオV」のパーティーにゲスト出演。お土産に中国製の掛け軸をいただきました。縁起モノだそうです。



4月25日

日本全国、感謝の心でお邪魔してます!

今月は青戸健の活動を写真中心でお知らせします。たくさんの皆さんの応援を受け、一步一步ヒットに向かっていきます!

4月29日



↑右のお二人は「まりご歌謡教室」の菊池真理子先生と、そのご主人。

5月2日



↑東京・西新井のCDショップ「演歌星」のご主人、藤原浩さんとキャンペーンの後の打ち上げで。

5月2日



↑茨城県神栖町の南海浜で開かれた「茨城アート連盟」のチャリティ撮影会で。トラックにサインしたのは初めてです。

5月4日



↑長野県東筑摩郡明科町にお邪魔して「潮神明宮」の祭典で歌いました。幻想的な魅力のあるお祭でした。

これからの主なスケジュール

- 6月4日 イベント・ゲスト (千葉県八街市・楽春)
- 5日 //
- 10日 「演歌流行歌」収録&カレンダー撮影
- 11日 青戸健 親睦ディナーショー
(マロウドインターナショナルホテル成田)
- 13日 結婚披露宴・ゲスト (千葉県・成田ビューホテル)
- 15日 イベント・ゲスト (千葉県佐原市)
- 18日 マスコミ向け報告会 (東京都新宿区)
- 27日 カラオケ大会・ゲスト (千葉県佐原市)
- 30日 カラオケ発表会・ゲスト (東京都足立区・まりご歌謡教室)

前略 青戸です!

4月21日、私は日頃からお世話になってる椎名急送の社長の奥様、そのご親戚の方と一緒に花見に出掛けました。行き先は、福島県。有名な三春の滝桜を愛でに出掛けたのです。



中央が椎名社長の奥様です

ご存知ない方のために簡単に紹介しますと、国の天然記念物に指定されている紅しだれ桜で、樹齢100年以上と推定されている巨木です。その美しさは、岐阜県根尾村の淡墨桜、山梨県武川村の神代桜と並び、

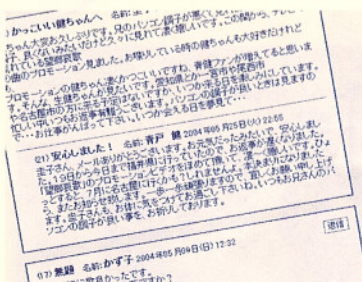


須賀川牡丹園の大けやき。その巨大さにビックリです!

日本三大桜に数えられるほど。是非ひと目みたいと思っていたのですが、残念ながらすでに見頃は終わっていました。そこで目的地を変更して、須賀川の牡丹園へ。ところが、ぼたんの時季には早すぎて、結局、園内には早すぎて、結局、園内に咲いていたチューリップを眺めて帰ってきました。タイムリグって難しいもんだなど、改めて思いました(これって歌や歌手にも言えますね。)途中、名物といわれる十割そばを食べたのですが、これがどうも今ひとつ。必ずしも100%がいんではないんですねえ。これも歌に言えるかなあ...、なんて結局、思うところは歌に戻ってくるのでした。

青戸健的生活

その八 パソコン



ホームページ開設を機に自宅のパソコンにADSLを引き、インターネットやメールを始めました。会社勤めの時代に憶えたので、キー操作は慣れたもの。インターネットの便利さや楽しさに感激しながら、「標準化」をもっと楽しんでいただくには?なんて考えてます(上の画像は掲示板から)。「標準化のこれからにご期待下さいね!

お便りをお待ちしております!

本紙や公式ホームページ「標準化」
<http://www.aotoken.com>でご紹介させていただきます。

青戸健に関するお問い合わせは...

K・Y プロモーション

〒286-0035 成田市困護台1-7-6-303
0476-24-1258 ky@aotoken.com

直言エッセイ

ちよっと、なまってるもの申す!



「他人に言うなら、自分から」

ピークは過ぎたようですが、ひとこと言わなくては気が済まないのが、国民年金問題。「払いましよう!」「払って下さい!」と国民には言っておきながら、制度の取り決めを行っている政治家多数に未加入や未納の事実があったという一件。

誰かに何かを薦めたり、参加させたりする時は、普通、自分でもキッチンと試したり、続けたらしているものでしょう。それをせずに「やりましよう!」「やってみよう!」なんて言ったら、無責任・いい

加減ということになると思います。しかし今回は、無責任。いい加減では許されない政治家に当てはまってしまったのですから困ったもの。中には「制度が複雑だから」なんて言い訳する者もある有様。複雑でも収めていた国民はたくさんいるし、自分も困るくらい複雑なら、そういう問題を率先して解決するのが政治家の務めでしょうに。問題の議員たちには、恥ずかしかつた体験を活かして制度改正に努めてほしいものです。